

明德義塾高女子卓球部史上最強とも言われた、青井さくら（筑波大）や白山亜美（サンリツ）らが卒業し、主力が全員入れ替わった。それでも、全国高校総体決勝という、先輩たちと同じ景色を見ることのできた。

全国高校総体女子団体準優勝

明德義塾高女子卓球部史上最強とも言われた、青井さくら（筑波大）や白山亜美（サンリツ）らが卒業し、主力が全員入れ替わった。それでも、全国高校総体決勝という、先輩たちと同じ景色を見ることのできた。

しかも初戦の2回戦から準決勝までの4試合は全て、重要とされる複を落としながら、単の4人で3点をもぎ取って勝った。「あと一本取られたら負け」という場面も一度や二度ではなかった。それでもしのぎ切った。

となれば、知りたいことは一つ。その粘り強さは、いったい何？

◆ ◆ ◆
第一単で、準決勝までの4試合を全て勝利したエース上田紫乃は「一番は応援。明德の応援は日本一です」。ベンチ、観客席の控え選手たちの強力な後押しがあるから、ピンチでも負ける気がしないのだという。

選手の手を引出す応援について、控えの近藤理央が教えてくれた。「リードしているとき、劣勢のとき、どんな声をかけてほしいかを選手一人一人に聞いて、紙に書いて持って行くんです」

第二単の主将、中本杏月は、

その粘り強さ 正体は？

学校の練習場の壁に掲げられた標語を指さした。もうダメだと思ったときが始まりだ」とあつた。「それが全員の頭にあるんです。だからインターハイの団体戦も、負けるとは思わなかった。追い込まれてからが勝負なもろってるのに、緊張が言っ



ボーズを取る明德高女子卓球部員。試合中はこの笑顔から想像できない集中力を発揮する(明德義塾中高・森本敦士撮影)

てられませんか」ときつぱり。

自分の勝敗がそのままチームの勝敗になる最終単の水野瑞希は「みんなで私に回してくれたのだから、負けるわけにいかない。というか『回ってこい』と、ずっと思っていました。プラ

ス思考が粘りを生んでいる。佐藤利香監督はピンチにタイムを取ったとき、戦術面の話しかしない。「精神的に追い詰められるのは、戦術的にうまくいかないから。それをえ解決すれば、悩む必要はないですよね」。なるほく、その通りだろう。

◆ ◆ ◆
今月4日、高知市の県民体育館。全国高校選抜大会四国予選の女子団体決勝で、明德は長年のライバル土佐女と四国一の座を争った。

明德は土佐女に第1、2単を奪われ、もう後がない0-2。復で登場した新主将の水野と渡辺のコンビも、第1ゲームは接戦の末10-12。このまま押し切られるのか……。さすがの水野も諦めかけた。

「でも『もうダメだと思ったときが始まりだ』ですよ」
チームは大逆転の3-2で宿敵を退けた。粘りと集中力は、脈々と受け継がれていく。

(井上太郎)